



女性のあらゆる悩みに対応し 個別化された先進的な医療を提供

産科婦人科は女性診療科であり、各分野の専門医が女性の生涯にわたるあらゆる悩みに丁寧に対応する。婦人科腫瘍分野、周産期医療分野、生殖医療分野という大きく3つの専門領域がある。近年、思春期や更年期の諸問題を含む女性のヘルスケア分野も重視し、女性健康外来も設けている。私たちは「同じ疾患であってもその病状は患者さん一人ひとり異なる」ことを重視し、徹底したカンファレンスにより個別化された治療を提案する。さらに、患者さんの要望や社会的背景を考慮し、十分なインフォームド・コンセントを得て治療を行う。

特に、がん診断では婦人科腫瘍に詳しい病理医との顕微鏡カンファレンス(2回/週)、放射線科医との画像カンファレンス(1回/週)を行い、正確な病態診断を行う。がん治療では、近年、妊孕能温存希望の患者さんが多く、可能な限りその期待に応える。また進行・再発がんでは各診療科の協力を得て広範囲の根治的手術を行い、またQOLを重視した化学療法や射線療法を行う。なお、周産期医療および生殖医療については、57ページの周産母子診療部を参照されたい。

代表的診療対象疾患

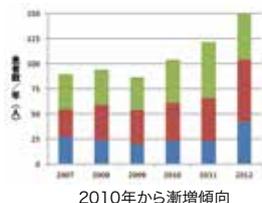
子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、良性卵巣腫瘍、子宮筋腫、子宮内膜増殖症、子宮肉腫、絨毛性疾患、外陰がん、膣がん、卵管がん、腹膜がん、子宮内膜症、子宮腺筋症、性感染症、付属器炎、骨盤内炎症性疾患、思春期、避妊、無月経、月経困難症(月経痛)、月経前症候群、神経性食欲不振症、早発閉経、更年期障害、子宮脱、骨粗しょう症

診療体制と治療実績

当科への婦人科がん患者さんの紹介が急速に増加している。高度先進医療として、腹腔鏡による骨盤内リンパ節郭清を含む子宮体がん手術、ロボット支援下腹腔鏡(da Vinci)による子宮頸がん手術を行っている。

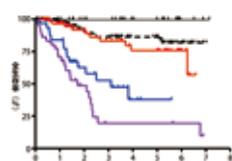
当科で治療を受けた子宮頸がん、子宮体がん、および卵巣がん患者さんの生存率は国内外の施設と比較してもきわめて良好である。

婦人科がん患者数の推移

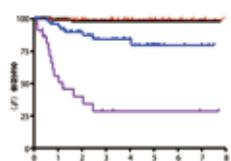


2010年から漸増傾向

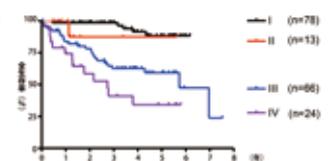
子宮頸がん患者の生存率



子宮体がん患者の生存率



卵巣がん患者の生存率



臨床研究の取り組み

医師主導治験をはじめ多様な研究を展開

医師主導治験として「再発・進行卵巣がんに対する抗PD-1抗体を用いた免疫療法の臨床試験」を立ち上げ、2011年9月に登録を開始し現在も継続中である。この臨床試験は当科の腫瘍免疫という新しい視点からの基礎研究に基づくもので、難治性卵巣がんに対する画期的な治療法の開発をめざしている。

また、婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)「子宮頸がんIB期・IIA期リンパ節転移症例を対象とした塩酸イリノテカン(CPT-11)/ネダプラチン(NDP)による術後補助化学療法に関する第II相試験(JGOG1067)」、日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)「腫瘍径2cm以下の子宮頸がんIB1期に対する準広汎子宮全摘術の非ランダム化検証的試験(JCOG1101)」を行っている。